

ゲストティーチャー

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社
統合運用フィールドサービス統括部
カスタマサービス部
北海道カスタマサービス課

住 谷 祐 司

小学校のゲストティーチャーとして、「カスタマエンジニア」の仕事について特別授業を行った話です。

私は娘が小学校6年生の時、夏休みの宿題を手伝っていました。

その宿題は、家族の仕事について調べる内容で、娘は真剣な表情で情報を集めていました。

娘の質問に丁寧に答えていくと、最後の質問に目が留まりました。

その質問は、「仕事の大変さ、喜びややりがいについて、学校で授業をしていただけますか」と書かれており、子どもたちが将来の自分の姿を想像しながら、夢と希望をもって新しい道を歩むサポートをして欲しいとありました。

娘は目を輝かせながら私に頼み込んできました。

私は、その輝いた目に根負けし、最後の質問に思わず『はい』と記入してしまいました。

そして数日後、学校から手紙があり、私は娘の小学校でゲストティーチャーとして授業を行うことになりました。

その手紙を読みながら、娘が喜ぶ姿を想像し、楽しい授業にしたいという気持ちが湧いてきました。

その日の授業のテーマは、私の仕事である「カスタマエンジニア」についてです。

私は授業のためにわかりやすい資料を準備し、サーバやパソコン本体を持ち込み、子供たちに分解や組み立ての経験をさせることにしました。

授業が始まると、子供たちは興味津々の表情で私の話を聞いてくれました。

まず、「カスタマエンジニア」がどのような仕事をするのかについて話をしました。

「カスタマエンジニアは、お客様のサーバやパソコンのトラブルを解決する仕事です。」

24時間365日待機して、夜間の急な出動や、時には複雑なトラブルを解決していることを説明しました。

子供たちは私の話に関心を持って耳を傾け、多くの質問をしてくれたことに新鮮さを覚えました。

具体的な例やエピソードを交えながら話を進め、「例えばパソコンが起動しない、インターネットにつながらない、ウイルスに感染してしまったなど、さまざまな問題が発生します。」

カスタマエンジニアは、お客様の問題を迅速に解決し、仕事や生活をスムーズにするお手伝いをします。」と伝えました。

次に、私は持ち込んだサーバやパソコン本体を使って、実際に分解や組み立てを行う体験してもらいました。

子供たちはワクワクした表情で手を挙げ、積極的に参加したいという意欲を示してくれました。

子供たちを2つのグループに分け、それぞれにサーバやパソコン本体を手にとらせ、準備していた資料で手順を説明し、必要な道具や注意点を教えました。

最初は戸惑いながらも、真剣な表情で話を聞きながら作業に取りかかりました。

子供たちは興味津々で作業を進め、互いに助け合いながら分解や組み立てを行いました。

「このネジを外すと、カバーが開けられます。ここにはメモリーやハードディスクなどの重要な部品が入っています。組み立てる時は、正確に部品を取り付けることが大切です。」などと教えながら進めていくと、時間が経つにつれて、子供たちは協力し合い自信を持って作業を行うようになりました。

子供たちは自分たちの手でサーバとパソコンを分解し、無事に部品を取り出すことができました。

そして、再び組み立てることで、サーバやパソコンが動作することを確認すると、自分たちで組み立てられたことに喜び、笑顔を見せてくれました。

授業の最後に、子供たちに感想を聞いてみると、キラキラとした目で、この授業がとて

も楽しかったと答えてくれました。

子供たちが楽しんで授業を受けてくれたことを知って、安心感と同時に自分の仕事に対する自信も深まりました。

また、「カスタマエンジニア」の仕事に興味を持った子供たちもいました。

「カスタマエンジニア」になりたいと思ったら、コンピューターの知識を深めることや、トラブルシューティングの方法を学ぶことが大切だと伝えました。

この授業を通じて、私は子供たちに技術や知識を教えるだけでなく、自信やチームワークの大切さを伝えることができたと感じました。

子供たちにとっては、新たな経験を通じて成長し、将来の可能性を広げるきっかけとなったのではないのでしょうか。

私も子供たちの姿を見て、自信やチームワークの大切さを改めて感じる事が出来ました。

このような貴重な機会を与えて頂いた学校や子供たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

娘にも感謝し、私の仕事を理解してもらえたことが嬉しく思いました。

最後に、この授業をきっかけに、未来の「カスタマエンジニア」が誕生してくれることを期待しています。